



ASIS インターナショナル日本支部  
広報担当理事 長瀬 泰郎



## ASIS インターナショナル日本支部便り 月次セミナー 9月度 「オフィスセキュリティの現状とオフィスセキュリティマーク認証制度のご紹介」

9月の月次セミナーは、元社団法人ニューオフィス推進協議会主任研究員で、現コクヨファニチャー株式会社セキュア推進室室長、広常 猛氏による講演が行われました。題して「オフィスセキュリティの現状とオフィスセキュリティマーク認証制度のご紹介」です。オフィスセキュリティってこんなに分かりやすいのか、というのが聴講者の素直な感想です。以下、広常氏の講演内容を紹介します。



講演する 広常 猛 氏

社団法人ニューオフィス推進協議会は、オフィス作りの専門団体として、オフィスの質の向上に取り組んできました。新しいワークスタイルやオフィスのあり方に関する調査・研究のほか、情報収集・提供並びに人材育成などの活動に取り組んでいます。また、日経ニューオフィス賞など新しいオフィスに対する表彰事業も実施しています。

### ■ セキュリティを取り巻く社会環境

相次ぐ不祥事、法規制の厳格化、リスクに対する

社員の感度やモラルの低下などにより、企業の抱えるリスクが増大しています。2006年には、1日2.7件の個人情報漏洩事案が発生し、発生企業が支払わなければならない年間の想定損害賠償額は4,000億円を超えています。

最近の情報漏洩についての調査の中で、一番多い漏洩経路は書類などの紙媒体で、次がCD-ROMなどの記録媒体、3つめがEメール、4つめがパソコン本体でした。件数だけみると、物理的なものの件数が圧倒的に多いことがわかります。

### ■ オフィスにおけるセキュリティの考え方

元々セキュリティとは、「安全・安心、保護・保障」を意味する言葉ですが、企業セキュリティとして定義し直すと「企業の経営資産を適切に保護し、想定される脅威に対して安全な状態を創出し、維持する経営活動」となります。さらに、企業の中で働く場としてのオフィスセキュリティは、「オフィスの経営資産を適切に保護し、想定される脅威に対して安全な状態を創出し、維持する経営活動」と定義できます。

具体的には、①企業活動を中断することなく円滑に継続させる(事業継続)、②株主、顧客などのステークホルダーに対して保護資産の責任を全うする(内部統制)、及び、③犯罪、災害などの影響を低減し、企業の競争力を維持する(リスクマネジメント)ことが主な目的です。

### ■ オフィスにおけるセキュリティ対策の実践

オフィスセキュリティ対策で重要なのは、企業として

のセキュリティポリシーの確立、経営者のコミットメント、PDCAサイクル実施です。これらの基本をしっかり構築することがまず大事です。その上で次の対策を実践していきます。

① 組織的・人的対策

基本方針と管理規程の策定と見直しなどの組織的対策のほか、社員教育や秘密保持に関する人的な対策です。経営者からのトップダウンポリシーを社員に周知徹底することがとても大事です。このとき、これに基づいた規程などの文書はできるだけサンプルでわかりやすくなるように工夫し、文書ボリュームもできるだけ少なくすることが肝要です。

② 技術的対策

情報システムやコンピューターに関する対策です。

③ 物理的対策

オフィスは建物の中にあるという前提で、入退室管理やオフィスレイアウトにセキュリティゾーンの考え方を導入します。

■ オフィスセキュリティマーク認証制度

オフィスセキュリティマーク認証制度とは、オフィスにおける適切なセキュリティ対策を実施している組織に対して、社団法人ニューオフィス推進協議会が定める「オフィスセキュリティマーク認証基準」に基づき審査・認証を行うものです。主にオフィスセキュリティに対してどこから手を付けたらいいのかわからない中小企業を対象にしています。

	プライバシーマーク Privacy Mark	ISMS適合性評価制度 ISMS	オフィスセキュリティマーク認証制度 Office Security Certification
認証機関	財団法人 日本情報処理開発協会 (JIPDEC)	財団法人 日本情報処理開発協会 (JIPDEC)	社団法人 ニューオフィス推進協議会 (NOPA)
審査機関	15機関	23機関	NOPAのみ
認証内容	個人情報の適正管理	組織における情報セキュリティマネジメントシステム	オフィスにおける適切なセキュリティ対策
対象企業	主に中規模企業から大規模企業	主に大規模企業	主に小規模企業から中規模企業
取得単位	原則的に組織全体	組織の一部に限定して可能	組織の一部に限定して可能
取得費用	30万円～ (コンサルティング費用除く)	100万円～ (コンサルティング費用除く)	21万円～ (コンサルティング費用除く)
取得期間	約6か月～1年	約6か月～1年	約3か月
更新時期	2年更新	3年更新	2年更新
運用開始	1998年4月	2002年4月	2006年10月

各種セキュリティ認証制度の比較

認証内容、取得費用、期間など、中小企業にとって比較的取得・継続しやすい認証制度となっています。ファーストステップとして最初にこれをとって企業が大きくなれば、PマークやISMSなどを取ればいいと思います。

内容的にも、オフィスを3段階にレベル分けする「ゾーニング」、「ファイリング」そして「クリアデスク」の三つのわかりやすいキーワードを中心にして対策するよう工夫されています。

この認証取得のメリットとしては次のものが挙げられます。

- ① 企業価値をアピールできる。
- ② 顧客の信頼獲得につながる。
- ③ オフィスにおけるセキュリティの課題が明確になり、その対策と改善に結びつけやすい。
- ④ 目に見えるセキュリティを志向するので、社員のセキュリティ意識が醸成され、不正行為防止に役立つ。
- ⑤ 文書整理の徹底や「クリアデスク」などにより業務効率が向上するとともに、結果としてオフィス環境が改善される。



熱心に話を聴く出席者

費用のかかる高度システムやハードウェアに頼らなくても、目に見える課題に具体的に取り組むことにより社員のセキュリティ意識を高めることができますし、結果としてオフィス環境がよくなるというおまけがつくのです。

さらにこの制度では、「オフィスセキュリティコーディネータ」資格を作り、中小企業がオフィスセキュリティマーク認証のための準備と申請を行う際に「オフィスセキュリティの専門家として支援できるようにしています。

以上、広常さんによるセミナーでした。  
この後、講師の広常さんを中心に、有志の皆さんで恒例の居酒屋情報交歓会が開かれました。



居酒屋情報交歓会

10月の月次セミナーは、9月に米国アトランタ市で開かれた ASIS インターナショナル本部主催の年次セミナーと大形展示会の視察報告がテーマです。

### ■ ASIS インターナショナル日本支部の月次セミナーへのお誘い

ASIS インターナショナル日本支部は、月次セミナー(「セキュリティミーティング」)を開いています。産業セキュリティに興味がある方ならどなたでも参加できます。お申し込みはホームページから！

#### ■ 開催日

毎月第三火曜日 午後6時半より

#### ■ 場所

日本支部のホームページでご確認ください。

[www.asis-japan.org](http://www.asis-japan.org)

#### ■ 参加費

2,000円(ASIS 会員・非会員同一料金)

このコーナーへのお問い合わせや入会お申込みは  
ASIS インターナショナル日本支部 事務局まで

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-2-17  
日本保安人事株式会社内  
TEL 03-3255-3468 FAX 03-3258-7630  
E-Mail [info@asis-japan.org](mailto:info@asis-japan.org)  
[www.asis-japan.org](http://www.asis-japan.org)